—編 集 後 記—

第 161 号は，若手特集を中心にお届けします．若手特集は，学会の将来を形づくる取り組みとして，少しずつ学会全体に根づいてきたと感じています．編集委員会としては，企画の継続 · 運営のために査読のご協力をお願いする場面も増えますが，「学会の将来 = 若手育成」という趣旨にご共感いただければ幸いです．

あらためて若手特集の要点を共有します．若手研究者にとっての主なメリットは次のとおりです．

· 受付日から原則 3 か月以内に採否を決定
· 投稿費 · オープンアクセス費用の免除

この仕組みは，「早期の査読結果の報告」と「一般投稿と同水準の品質担保」を前提としています．査読者の皆様には相応のご負担をおかけしますが，その分，著者にとっては研究を速やかに前へ進める後押しになります．一方で，「若手特集＝高い受理率」ではありません．学生 · 若手の皆さんには，査読者（多くは先行する世代の研究者）との対話を通じて，原稿をともに磨く“教育的プロセス”という側面があることも，あわせて共有しておきます．

昨今，若手に求められる業績のハードルはかつてより高くなっています．だからこそ，アットホームな雰囲気を大切にしてきた本学会では，編集委員や査読者が一歩踏み込んだ助言や提案をお返しすることがあります．恥ずかしながら少し個人的な話をすれば，私自身，博士課程 2 年目に Vadose Zone Journal へ投稿した論文がリジェクトとなり，当時の編集長 Dani Or 博士から多くの指摘とともに次の言葉をいただきました．

“Although you are no doubt disappointed with our decision to decline publication at this time, I appreciated the opportunity to consider your paper and encourage you to continue to submit your research results to VZJ.”

定型句に見えるかもしれませんが，当時の私には大きな励ましでした．前に進む勇気をもらい，その後の研究と執筆の姿勢を支える言葉になっています．

若手特集は，学び，成果を積み上げ，将来の飛躍につながる実践の場です．ぜひ挑戦してください．投稿のご検討と，査読へのご協力を重ねてお願い申し上げます．

徳本家康（編集委員）

土壌物理学会

事務局構成	会　　長	西村　　拓	東京大学 大学院農学生命科学研究科
	副 会 長	宮本　輝仁	農研機構 農村工学研究部門
	庶務幹事	山﨑　琢平	東京大学 大学院農学生命科学研究科
	庶務幹事	本間　雄亮	農研機構 農村工学研究部門
	編集幹事	坂井　　勝	三重大学 大学院生物資源学研究科
	会計幹事	西田　和弘	東京大学 大学院農学生命科学研究科
	会計監査	橋本　洋平	東京農工大学 大学院農学研究院
		小林　幹佳	筑波大学 生命環境系
編集委員会	委 員 長	渡辺　晋生	三重大学 大学院生物資源学研究科
	委　　員	青木　伸輔	香川大学 農学部
		朝田　　景	農研機構 農業環境研究部門
		加藤　千尋	弘前大学 農学生命科学部
		小島　悠揮	岐阜大学 工学部
		高松　利恵子	北里大学 獣医学部
		辰野　宇大	北海道大学 農学部
		徳本　家康	佐賀大学 農学部
		森下　智陽	森林研究 · 整備機構 森林総合研究所
		百瀬　年彦	石川県立大学 環境科学科
		山下　祐司	東京大学 大学院農学生命科学研究科
		吉岡　有美	岐阜大学 応用生物科学部